

卒業生の今 活躍する 医科歯科人

すずき みほ

1994年東京医科歯科大学医学部保健衛生学科看護学専攻卒業。96年同大学院医学系研究科(老人看護学)博士前期課程修了。99年語学留学のため渡米。ニューヨーク大学大学院に進学。2010年8月より現職。看護学博士。

医療行為を行える 看護職の経験生かす

メモリアル・スローン・ケタリング
がんセンター 骨髄移植科
ナース・プラクティショナー

鈴木美穂氏

米国には、上級の看護職としてナース・プラクティショナーという職種が存在する。日本の医師法では医師以外は診断や処方などの医療行為は認められていないが、ナース・プラクティショナーは手術などを除く診断、処方、治療などを行える。

この資格を取得するには、看護師としての経験を積んだ上で、大学院での専門科目の履修と数百時間に及

を処方して、投与することもできるのです。患者さんが必要とするケアに対して自らが携わる範囲が広いということ、責任が大きいと同時に、とてもやりがいを感じます」

現在、鈴木さんは、ニューヨーク州のメモリアル・スローン・ケタリングがんセンターでナース・プラクティショナーとして働いている。東京医科歯科大学を修了後、3年間看護師として勤務した後、語学留学のため渡米した。しかし、「明確な目的を持たないと語学力は身に付かない」と思い知り、ニューヨーク大学大学院の博士課程に進学。さらに、ニューヨーク州の看護師資格を取得して現地で働きながら、2010年に博士号(看護学)を取得した。

「米国では医師と看護師のほかに、看護助手や検査出しを専門に行うエスコート・トランスポーター、理学療法士、ソーシャルワーカーなど多数の専門職でチーム医療にあたっています。ベッドメイキングも専門の担当者がいる。そのため、看護師は看護に専念できます。一方で、専門職の方たちは自分の専門外のことは行いません。日本では手が空いていれば誰かを手伝うようなケースも多々あります。そこで私は、『日本の看護師はここまでやるんだ』という気概を持って取り組んでいます」



メモリアル・スローン・ケタリングがんセンターでチーム医療に従事する鈴木さん。

鈴木さんは、米国でチーム医療に携わるようになり、母校の教養学部時代に医学部、歯学部と同じクラスで学んだことの重要性を実感している。当時の同級生たちとの絆はもちろん、「しつかりと基礎医学を学んだことは、臨床現場で働く看護師にとっても役立っている」と強調する。

渡米して今年で13年目。最近では、大学の非常勤講師も務めるなど活躍の場がさらに広がっている。将来は帰国して、日本の看護師を支援する仕事に就きたいと語る。

「高齢化社会を迎えた日本では、看護師の役割はますます重要になってくるでしょう。ナース・プラクティショナーの制度は日本にはありませんが、米国での経験を生かして、未来の看護師を鑑みた教育や啓蒙活動などを行いたいと考えています」

DATA

メモリアル・スローン・ケタリングがんセンター

ニューヨーク州
ニューヨーク市

メモリアル・スローン・ケタリングがんセンターは、1884年に、ニューヨーク・キャンサーホスピタルとして設立された。後に、ロックフェラー2世による寄贈を受け、さらにゼネラル・モーターズのスローンとケタリングらによって研究施設が創設された。世界でも最大規模のがんセンターの一つで、がん治療やがん治療のための研究開発を進めている。

